



# 同好会ひろば

第296号  
R5. 5. 25  
No.1

## 人とのつながりを大切にする同好会活動 ～憧れの人が見付かる同好会活動を目指して～

新型コロナウイルスが猛威をふるったこの3年余の期間、試行錯誤しながらも名古屋市社会科同好会は学びを止めることなく歩みを進めてきました。とはいえ、人と会うことが大きく制限をされていたことの影響を拭い去ることはできず、名古屋市社会科同好会が大切にしてきた人とのつながりが希薄になっていたことは否めません。しかし、私たちを取り巻く環境は変化しつつあります。



まだまだ予断を許さない状況ではありますが、令和5年5月8日から、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが2類から5類へと移行されました。人と会うことに様々な制限がされてきた日々から、少しずつ解き放たれつつあります。

そこで今年度は、名古屋市社会科同好会が発足以来大切にしてきた、人とのつながりを大切にするという原点に立ち返ることが必要だと考え、テーマを設定しました。

人とのつながりを大切にする同好会活動にするためには、会員同士が様々な同好会活動を通して良好な関係を築き、「憧れの人が見付かる」ようにしていくことが大切であると考えます。

「憧れの人が見付かる」同好会活動にしていくために、これまで行ってきた様々な活動の意義やねらいをもう一度捉え直し、若手・中堅・ベテランの会員が少しでも関わり合えるように活動の内容を考えていきたいと思えます。また、活動の開催方法については、コロナ禍以前のように全ての活動を対面に戻すことはせず、コロナ禍で培ったオンライン会議システム等も活用しながら、対面での会とオンラインでの会どちらがより充実した活動になるのかを選択・判断しながら進めていきたいと思えます。

若手・中堅の先生方には、同好会が主催する様々な活動に積極的に参加し、一人でも多く、憧れの人を見付けてほしいと思えます。また、憧れの人となるような素地を身に着けていただきたいと考えています。

ベテランの先生方には、これまで参加を見送られていた活動にも足を運んでいただき、後輩たちへのアドバイスや温かい声掛けをしていただけたら幸いです。

4月全体会には100名を超える会員の皆様にご参加いただき、本当にありがとうございます。今年度の同好会活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

### 【第296号 紙面】

人とのつながりを大切にする同好会活動	(p 1)
4月全体会	(p 2)
4月全体会・全体会アンケート	(p 3)
子ども輝く社会科授業・お知らせ・今後の予定	(p 4)

## 社会科同好会全体会

4月27日（木）、社会科同好会全体会を開催しました。より多くの同好会員の皆様に参加していただくことができるようにオンライン開催としました。当日は、100名を越える同好会員に参加していただきました。本当にありがとうございました。

会の中では、社会科同好会会長の東港中学校太田智先生よりご講話をいただきました。また、社会科研究会委員長の八幡小学校前野協太先生よりご挨拶いただきました。

### 『私を変えた社会科教師との出会い』

名古屋市社会科同好会会長 東港中学校 太田 智 先生

#### 中学校教員として

自分は新卒以来36年間、中学校現場一筋の人間です。初任校で苦労はしましたが、それなりに充実した6年間を過ごしました。

新しく赴任した中川区の中学校もかなり大変な学校でした。それなりに自信をもっていた授業も、思うようにできません。赴任して3年経ったある日、思い切って校長室を訪ね、校長先生に「小学校に変わりたい」と打ち明けました。すると、校長先生は表情を変えることもなく「太田君、小学校に変わるとか言う前に、うちの学校で何か成果を上げてくれたかね？」と言いました。真顔で言われると「何もやっていません」と答えるしかありません。ある意味、そこで腹を決めたのかもしれませんが。それなら、どんなやんちゃな子でも、やる気のない子でも社会科の授業にだけは食い付く。そんな授業づくりに真剣に取り組もうと思いました。



#### 忘れられない出会い

自分の生き方に後々大きな影響を与えることになる社会科教師との忘れられない出会いがありました。今から25年前の話です。

全く目が見えない社会科教師がいるという話を、たまたま本で読みました。筑波大学附属盲学校（現在は筑波大学附属視覚特別支援学校）の、青松利明（あおまつとしあき）といわれる先生です。思い切って学校に連絡し先生にお会いしたいと伝えると、「いつでもどうぞ」というお返事でした。そこで夏休みに東京まで会いに行きました。青松先生は普段の授業の様子を一生懸命話してくださりました。青松先生のお話は驚きの連続でした。同時に、強い衝撃を受けました。目が見えないということだけで、「きっと辛いだろう」「かわいそうだ」と決めつけていた自分が恥ずかしくなりました。そして、むしろ、自分より青松先生の方が何倍も人生を楽しんでいるのではないかと思いました。そして、授業が上手いかないという自分の悩みが、ものすごく小さなことに思えてきました。

青松先生に教えていただいたこと。それは、どんな環境にあっても、辛くても気持ちの持ち方によって、幸せは0にもなるし100にもなる。同じように悩みごとも0にも100にもなる。今この話を聞いている方の中に、いろいろな悩みを抱えてみえる方がいても、その悩みを軽くしたり、なくしたりすることは、いくらでもできるということです。

### 若手会員のみなさんへ

出会いは人生を変えることもある。だから出会いに躊躇なかれ。迷ったときは思い切って人に当たるべし。「授業づくりも同じだ」と、社会科の諸先輩から何度も教えられました。「足を運んで人に当たれ」「ネットで調べて分かったような気になるな」「人の思いは会って話さなければ分からない」今日の話聞いた若い先生方が、今後、人生を変えるような素晴らしい人と出会い、社会科教師として、そして1人の人間として、大きく成長していただけることを望んでいます。

#### 〈名古屋市社会科研究会委員長 八幡小学校 前野 協太 先生〉

若手会員の方は、とにかくたくさんインプットしてください。たくさんの本を読んだり、授業を見たり、同好会の会にたくさん参加してそこで得たことを自身の授業に取り入れてみてください。

中堅会員の方は、ぜひアウトプットをしてください。アウトプットすることで、自分の実践の何が良かったのか、何がいけなかったのかが見えてきます。



それ以上の会員の方は、自分の研鑽は続けながら、後輩を育てる、また、指導者を育てる立場になります。昨今、個別最適な学び、ICTなど、新しい言葉が飛び交っています。それらはもちろん大事ですが、根本の社会科で大切なことが抜けていないかといった視点でも指導をしてもらえるとよいと思います。それはこれまでに実践を積み重ねてきた先生方が一番よくわかってらっしゃると思います。不易と流行、どちらも大切にしながら指導をしていただきたいと思います。

また、若い先生方はぜひ、そういった先輩たちの指導に耳を傾けて実践に取り組んでいってください。今年度の同好会テーマである「つながり」を大事にして、社会科同好会を盛り上げていってください。

#### 【全体会へ参加した同好会員の声】

- 同好会活動に参加する中で、様々な人と出会ってきた。今年度も様々な会に参加し、新たな人とのつながりを大切にしたい。
- 活動計画基本案の説明後、会員の意見や質問に答えてもらえる場があったのは、同好会全体で一緒に活動を進めていこうとしている感じがしてよかった。
- オンラインの開催ということで、多忙な時期ではあったが参加することができた。どちらがより充実した活動になるかを選択・判断して開催していただけるのはありがたい。



## 子ども輝く社会科授業



魅力あふれる教材を開発し、子どもが輝く社会科授業。そのような授業を日々積み重ねておられる会員の先生方の実践を紹介しします。

### 最後まで追究意欲を持続することができる子どもの育成

～現場の声を聞き、問題解決に向けて仲間とともに学び、行政へ提案する活動を通して～

戸田小学校 山口恭平

社会科の授業で、教材との出会わせ方の工夫により、子どもの追究意欲を引き出すことはできても、一時的なものにとどまってしまう場合がある。しかし、単元を通して、調べ学習の必要性を感じられる学習展開にしたり、単元末で学びを発揮できる活動を取り入れたりすれば、最後まで追究意欲を持続できると考えた。私は、「水産業のさかんな地域」の学習で、漁師さんに、水産業の抱える問題を伝えてもらうところから、単元をスタートさせた。現場で働く人だからこそその熱意と説得力を肌で感じた子どもたちは、意欲的に調べ学習に取り組んだ。単元の途中では、調べたことを伝え合い、子どもたち同士で互いに評価し合う活動を取り入れた。この活動により、「調べたかいがあった!」と調べ学習の成果を感じる子どもの姿が見られた。同時に、自分の調べ足りない内容に気付き「まだ調べないとね!」とつぶやく姿も見られ、子ども自らが更なる調べ学習の必要性を感じている様子だった。単元末には、これまでの学びを生かしながら、グループで水産業の抱える問題の解決策を考え、愛知県庁農業水産局水産課へ提案する活動を取り入れた。提案先を実際に問題解決に努めている行政機関にすることで、子どもの追究意欲を最大限に引き出すことができた。提案を終え、水産課の方に、自分たちの提案を認めてもらえたときの子どもたちの表情は、達成感や満足感にあふれていた。

この実践から、単元全体を見通して、授業改善を行っていくことや外部の方と連携しながら学習を進めていくことの大切さを改めて感じた。今後も子どもの追究意欲を持続できるような社会科の授業を目指していきたい。

### 自分たちの生活とのつながりを実感できる歴史学習～時代を大観する活動を通して～

明豊中学校 小木 英梨奈

「戦が多い信長の世は幸せとは言えないという意見があったが、私は自由に商売できる世にした信長が良い。」この生徒のように、歴史学習において、自分の価値観と他者の価値観の違いに触れ、価値観は人それぞれ違うことに気付き、それがどのように違うのかを考える生徒を増やしていきたいと考えた。そこで、終末段階における、以下のような二つの学習活動を設定した。

一つめは、「時代大観カード」の作成と多様な価値観に気付く活動である。「時代大観カード」は、単元全体の教科書から資料を二つ選択し、自分の解釈をまとめる部分と、資料を関連付けて時代の特色を総合し、表現する大観の部分の二つで構成する。作成したカードをもとに他者と交流し、自分とは違う考えに触れる。交流する際には「どのようなことを重要視しているか?」に注目し、重要視していることの共通点と相違点について話し合った。明治維新の単元では、「重要視していることが人それぞれ違う」と多様な価値観の存在に気付くことができた。

二つめは、次の時代のあり方の見通しをもつ活動である。カードを用いた交流をもとに、次の時代はどのようなことを大切にする時代が良いか、見通しをもつ活動を行った。明治維新の単元では、多様な価値観に触れて、自分の価値観を見詰め直し、次の時代のあり方の見通しをもつことができた。

二つの学習活動に基づいた歴史学習により、自分たちの生活とのつながりを実感できた。

### ～今後の予定～

6月 8日(木)	19:00～	授業づくり講座①(小学校:中小企業振興会館、中学校:Zoom開催)
6月 22日(木)	19:00～	オンライン交流会
7月 6日(木)	19:00～	授業づくり講座②(中小企業振興会館)
7月 27日(木)	18:30～	小中合同部会
9月 7日(木)	19:00～	小・中学校部会
9月 14日(木)	19:00～	授業づくり講座③

### お知らせ

名古屋市社会科同好会の公式 LINE に登録し、紙不要とお答えいただいている会員のみならずには、発送業務の削減やペーパーレスにご協力いただき、とてもありがたく思っております。

次回の発送以降は、紙不要とお答えいただいている会員のみならずには、紙での発送はやめ、同好会公式 LINE かホームページで発送物をご覧いただければと思います。なお、年度末に発送する予定の「あゆみ」については、全会員に発送させていただきます。

もしも、紙不要の対応でよいと思われる会員の方がいらっしゃいましたら、右にあるQRコードから LINE 登録の上、一人でも多く申請をしていただけると助かります。よろしくお願いいたします。

